

平成 31 年 1 月 21 日

1 月の木材価格・需給動向

1. 国産材(北関東)

栃木県内では好天が続き、出材のピークを迎えている。伐採作業は皆伐・間伐材ともに順調である。12 月中旬以降、入荷は増加に転じたが、それでも原木不足が継続している。このため、製材工場では増産ができる体制になく、製材品の供給が増えない状況にある。今は降雪の季節でもあり、製材工場は少しでも原木在庫を確保したいので、高値安定の価格でも引き合いは、まだまだ続くものと予想される。

群馬県では原木の出材が相変わらず低調で集荷しにくい。例年、山の神と降雪の影響で 1 月の出材は低調だが、今年はさらに少ない。製材工場の操業は順調だが、原木の在庫状況により製材品目を変えているので効率が良くない。公共工事の材料の注文はあるが、全体的には低調である。在庫は羽柄材、構造材等が全体的に品薄である。原木価格の上昇に製品価格が追随しないので、収益率は悪化している。

2. 米材

米加産地の出材は順調。米国内の港頭在庫は潤沢な水準を維持しているが、カナダでは順調な出材ながら在庫が依然低水準である。ウェアハウザー社の 1 月積み対日価格(推定)は前月比で\$10 ダウンの\$860 と小幅なダウンで決着し、底値気運が出てきた模様。ただ、原木の在庫環境において米加間で隔たりがあり、価格推移も米加で温度差が出てきた(米国側に比べてカナダ側の価格下落のスピードが緩い)。産地製材品価格は底這い状態で浮上の兆しが見えない。ランダムレングス紙発表の 15 種平均価格(1/4)は\$326/M で 12 月頭に比べ 5.7% の down。対日向け価格も第 4・四半期よりも下がっており、先安感がある。アメリカの対日向け DF 製材工場の出荷が遅れており、第 1・四半期は全体の契約数量は減少。価格は数ドルの down にとどまった。

11 月の原木入荷量は 173 千 m^3 と再び低調、1~11 月累計で 2,392 千 m^3 (前年同期比 1.1% 増)、出荷量は 218 千 m^3 、1~11 月累計で 2,414 千 m^3 (同 0.3% 増) とほぼ前年並み。在庫は減少し、200 千 m^3 割れの 176 千 m^3 となり、在庫率も 0.81 ヶ月と 1 ヶ月割れとなった。米材史上最低水準の在庫量、在庫月数と見られる。東亜林業の撤退、現地挽き製品の入荷低調で国内の米材製材工場の出荷は 11 月より上向いている。12 月の東京木材埠頭の入荷は 26 千 m^3 (前月比

13.7%増)、出荷は22千 m^3 (同14.8%減)、在庫は58千 m^3 (同7.9%増)。

3. 南洋材

サバ州では2019年中頃より原木輸出再開の話があるが、具体的な日時等はまだ公表されていない。本格的な雨季入りで伐採は低調。サラワク州では2019年の原木輸出枠は20%を継続。12月に入り、インドルピーが反発しインド向け船積が再開した。本格的な雨季入りで需給タイトながらFOB価格は大きく反発せずに安定。PNGでは生産が比較的良好で対日向けの集材も順調。FOB価格は中国向けが弱い、日本向けは高値安定。ソロモンでは中国市場が弱い。そのため原木在庫が捌けず、生産調整を行っている。フリー板の市況は非常に悪い。

4. 北洋材

シベリアの主要製材各社とも冬伐り原木が入荷しているが、生産量自体はそれほど上がっていない。中国向けが低調なため、製材数量を意識的に減らしている模様。それに伴い対日向けもオファー数量は回復していない。2019年1月以降、輸出枠を持たないシッパーは輸出税が25%から40%に上がることが発表された。現地挽き完成品の動きは年末年始で静かだが、上級グレードの不足状態は変わらずで、流通在庫は薄い。構造材に比べ羽柄材・下地材は動いているが、今後の入荷水準次第である。国内挽き完成品はDIY向けが好調だが、各メーカーとも原板在庫が減っており、注文には全て応えられない状況である。1月予想の原木入荷、出荷とも7千 m^3 、在庫は23千 m^3 。製品入荷(東京+川崎)18千 m^3 、出荷18千 m^3 、在庫38千 m^3 。

5. 合板

国産材原木は強含みで値上がり。特に東北のスギとカラマツの引き合いが強く、カラマツの不足感が顕著である。ロシア材は横ばいだが、先行き不透明感がある。米材は価格も少し弱含みになっている。南洋材は強気姿勢に変化はなく、価格も強含み。

11月の国内合板生産量27.3万 m^3 のうち針葉樹合板は26.1万 m^3 となった。出荷量は28.3万 m^3 と過去最高の先月を上回る高水準である。在庫量は16万 m^3 と2カ月連続の減少となり、このうち構造用合板は13.4万 m^3 。針葉樹合板は10月以降の活発な荷動きがあったことで、配送問題から一部安値が残っているが、徐々に価格の引き締まりが始まっている。輸入合板の荷動き自体は悪くないが、港頭在庫バランスが改善されず、価格転嫁も遅れている。11月の合板輸入量は27.1万 m^3 と高水準で、特にインドネシア産が9万 m^3 を超えた。輸入合板は生コンパネとラワン構造用の品不足が強い。産地マレーシ

アでは本格的な雨季に入り、原木在庫が減少し生産が落ち込んでいる。インドネシアも雨量が多い予想で、一部地域では洪水も発生し、この先原木不足に陥る可能性もある。先行き針葉樹合板は納期遅れから安値の玉も少しあり、一気に価格が戻るとは考えにくい。輸入合板は入港遅れが解消されておらず、生コンパネやラワン構造用の品不足が続くだろう。

6. 構造用集成材

ラミナの入港は順調である。2月より日欧経済連携協定が発効し、関税の引下げが見込まれるが、第2・四半期の現地価格の変化の有無はまだ届いていない。昨年年末にかけて荷動きは多少良くなっていたが、年明けの動きは若干鈍り気味。国内メーカーのRW梁桁の受注は横ばい、WW管柱の荷動きは良い。RW平角の荷余り感が解消されず、値下げに転じている。WW管柱はラミナ不足もあり強保合い。RW平角 62,000 円/m³、WW管柱 1,900~1,920 円/本。輸入集成材の10月入港は減少したが、11月は増加し、不足感は無いのと見られる。

7. 木材チップ

チップ原木の出材は降雪の影響が少なく順調。バイオマス発電への原木の引き合いが強く、分散化傾向が鮮明である。解体材は枝条等の災害木の入荷も落ち着いてきた。製紙用の国内針葉樹チップの使用量は増加傾向にあり、各社とも増集荷に向かっている。燃料用チップの一時期の大幅な余剰感は沈静化した。依然在庫過多の地域もあり、影響が残っている。製紙用原料はチップ工場毎に増減のバラツキが多い。

8. 市売問屋

本格的な冬となり、寒さと降雪のため、製材品の入荷量が少なくなってくるので、製品市場では製品不足（特に羽柄材）になると予想される。都内の建築もプレカット中心のため、国産材の柱、土台の荷動きが少ない。外材構造材はバンドル単位の販売のために売れない。造作材も国産材、外材ともに量がさばけない。

9. 小売

スギ貫、ラス下地は入荷後、直ちに無くなり、バタ角も同様に強含み。ヒノキは比較的安定しており保合い。米ツガ一部の割物に依然品薄感はあるが、全体的に安定してきた。スギ、ヒノキ造作材、枿材はいずれも値付けは良くない。針葉樹合板の勢いはないものの出荷量は増えている。建材メーカーのシステムトラブル、生産遅れの影響があったが、町場では沈静化に向かっている。忙しい工務店が多く、活気が出てきた。

1. 主要外材入出荷在庫量

		入荷量	出荷量	在庫量
米材	丸太	→	→	→
	製材品	→	→	→
北洋材	丸太	↘	↘	↘
南洋材	丸太	↘	→	↘
	製材品	→		

矢印の表示は今月に対する翌月の動向を、下記のように示したものである。

- ↑ 急増・急上昇
- ↗ 増加・上昇
- 横ばい
- ↘ 減少・低下
- ↓ 急減・急落

2. 合板供給量

国内製造量	輸入量		
	計	インドネシア	マレーシア
→	↗	↗	↗

3. 価格動向

樹材種	形状	取引条件	樹種・寸法等	動向
国産材	丸太	卸売価格 (北関東、県内産 市場土場渡し)	スギ柱材 (3m) 2等	→
			スギ中丸太 (3.65m) 2等	→
			ヒノキ柱材 (3m) 2等	→
			ヒノキ中丸太 (4m) 2等	→
	製材品 (関東近県産 板は東北産)	首都圏・市売り 価格	スギ柱角 (KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
			スギ柱角 (KD) 12.0×12.0×3m 特等	→
			スギ間柱 (KD) 10.5×3.0×3m 特等	→
			スギ加工板 1.3×18.0×3.65m 特等	→
			スギタルキ 3.0×4.0×3.65m	→
			ヒノキ柱角 (KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
ヒノキ柱角 (KD) 12.0×12.0×3m 特等	→			
ヒノキ土台角 12.0×12.0×4m 特等	→			
米材	丸太	産地価格	米マツ ISタイプ	→
		国内卸売価格 (京浜・オントラ)	米マツ ISタイプ コースト	→
	製材品 (カナダ産・ 現地挽き) (国内挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	米ツガ桁角 (KD) Std&Btr S4S 10.5×10.5×4m	→
			米マツ桁角 (GR) Std&Btr S4S 4・1/8" 13'	→
			米ヒバ土台角 (GR) Std&Btr 4・13/16" 13'	→
米マツ平角 (KD) 特等 10.5×24.0×4m	↘			
南洋材	丸太	産地価格	メランティレギュラー	↗
		東京・水面筏 渡し価格	メランティレギュラー 60cm上、4m上 製材用	→
		メランティレギュラー 60cm上、4m上 合板用	→	
	製材品	産地価格	ホワイトセラヤ 平割 (サバ州産)	↗
東京・問屋店頭 渡し価格		同上2.4cm×込み×4m 定尺1等	→	
北洋材	製材品	国内卸売価格 (京浜・オントラ)	アカマツ (KD) 30×40上級	→
			アカマツ (KD) 16×40上級	→
欧州材	製材品 (現地挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 間柱 2.7×10.5×3m S4S FOHC	↗
			ホワイトウッド ラミナ 2.4×11.0×3m上 ラフ乱尺	→
集成材	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 無化粧 JAS 5プライ	→
			スギ 無化粧 JAS 5プライ	→
	欧州産	//	10.5×10.5×2.98m	→
合板	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	タイプ2 F☆☆☆☆ 2.3mm厚 3×6	↗
			タイプ2 F☆☆☆☆ 4.0mm厚 3×6	→
			型枠 12.0mm厚 3×6	↗
			針葉樹構造用 12.0mm 3×6 F☆☆☆☆	→